

## オープンキャンパス等参加者数推移

## 宇都宮大学(教育学部)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開催日 (参考:海の日を含む3連休)	7/21(月・祝) (7/19、20、21)	7/20(月・祝) (7/18、19、20)	7/18(月・祝) (7/16、17、18)	7/17(月・祝) (7/15、16、17)	7/16(月・祝) (7/14、15、16)
参加者	2,370	2,645	2,145	2,184	1,761

## 群馬大学(教育学部)

## 全学オープンキャンパス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
開催日	8/3(日)	8/2(日)	7/31(日)	7/9(月)	7/8(日)	8/17(金)
参加者	951	790	825	595	693	1,620
(うち高校生)	695	602	581	397	460	1,180

## 学部オープンキャンパス

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
開催日	7/21(月)	7/20(月)	7/18(月)	7/17(月)	7/16(月)
参加者	748	709	720	801	910
(うち高校生)	631	621	581	566	593
次年度入試志願者数	1,258	957	938	838	

## 教育学部専攻別説明会事前申込者数(人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
国語	83	52	90	85	97
社会	95	79	101	105	147
英語	68	45	90	74	95
数学	94	58	100	106	106
理科	59	53	85	68	99
技術	2	2	5	1	3
音楽	46	48	38	50	52
美術	22	8	15	18	26
家政	10	19	12	24	32
保健体育	59	36	46	48	46
教育・教育心理	42	48	60		
教育				50	50
教育心理				38	42
障害児教育	39	23	46	36	49
未定	1	0	0	0	0
合計	620	471	688	703	844

## 県内高校の進路指導教員との意見交換

「高校教員を対象とした宇都宮大学入学試験に関する説明会」参加者数  
(教育学部説明に参加した高校教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H25	H26	H27	H28	H29	H30
岩手県						1
福島県			2		1	4
茨城県			3	2	3	4
栃木県		8	26	25	27	23
群馬県						
埼玉県			1	1	3	2
東京都						
福井県						
長野県						
合計		8	32	28	34	34

※平成30年度のみ学部毎に分かれずに実施

## 県内高校の進路指導教員との意見交換

「高校教員を対象とした群馬大学入学試験に関する説明会」参加者数  
(教育学部説明に参加した高校教員数)

参加者：人

高等学校所在地	H25	H26	H27	H28	H29	H30
山形県	1					
茨城県	1	1	2	2		1
栃木県	2	2	4	3	4	9
群馬県	32	28	39	33	33	62
埼玉県	5	3	8	7	6	11
東京都						1
福井県						1
長野県	2		1		1	1
合計	43	34	54	45	44	86

## 宇都宮大学教育学部

年度	出前講義
平成26年度	18
平成27年度	14
平成28年度	23
平成29年度	13
平成30年度	18

## 群馬大学教育学部

【過去5年間の大学見学会及び出張模擬授業の回数】

年度	見学会	出張模擬授業等
平成26年度	15	35
平成27年度	14	41
平成28年度	14	32
平成29年度	12	34
平成30年度	15	34

年度	開催場所	連携事業名	目的
26	栃木県総合教育センター	第5期とちぎの教育未来塾	(1)教職経験5年以内の若い教員が、自主的・継続的な研修を通して、教師としての基礎を確立するとともに、学生等を交えたグループ協議等を通して、先輩教員としての自覚を高める。 (2)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。
	県内	とちぎ県民カレッジ	●健康・スポーツコース 健康やスポーツなどに関する教室や講座です。 ●文化・教養コース 文学、芸術、政治・経済、時事問題、教育等を広く学習する講座です。 ●地域活動コース 地域の団体活動やボランティア活動に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●能力・自己開発コース 職業や日常生活に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●郷土理解コース 郷土の歴史、文化などの学習や自然とのふれあいをすすめる講座です。
	県内	とちぎ子ども未来創造大学	理系4コース、文系3コース、学び方1コースの全8コースで実施。 とちぎ子ども大学では、その場所で見られないもの、体験できないことなど、「本物」に触れる学びや栃木県で活躍している専門家の先生方の授業を受けることができる。
27	栃木県総合教育センター	第6期とちぎの教育未来塾	(1)教職経験5年以内の若い教員が、自主的・継続的な研修を通して、教師としての基礎を確立するとともに、学生等を交えたグループ協議等を通して、先輩教員としての自覚を高める。 (2)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。
	県内	とちぎ県民カレッジ	●健康・スポーツコース 健康やスポーツなどに関する教室や講座です。 ●文化・教養コース 文学、芸術、政治・経済、時事問題、教育等を広く学習する講座です。 ●地域活動コース 地域の団体活動やボランティア活動に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●能力・自己開発コース 職業や日常生活に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●郷土理解コース 郷土の歴史、文化などの学習や自然とのふれあいをすすめる講座です。
	県内	とちぎ子ども未来創造大学	理系4コース、文系3コース、学び方1コースの全8コースで実施。 とちぎ子ども大学では、その場所で見られないもの、体験できないことなど、「本物」に触れる学びや栃木県で活躍している専門家の先生方の授業を受けることができる。
28	栃木県総合教育センター	第7期とちぎの教育未来塾	(1)教職経験5年以内の若い教員が、自主的・継続的な研修を通して、教師としての基礎を確立するとともに、学生等を交えたグループ協議等を通して、先輩教員としての自覚を高める。 (2)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。
	県内	とちぎ県民カレッジ	●健康・スポーツコース 健康やスポーツなどに関する教室や講座です。 ●文化・教養コース 文学、芸術、政治・経済、時事問題、教育等を広く学習する講座です。 ●地域活動コース 地域の団体活動やボランティア活動に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●能力・自己開発コース 職業や日常生活に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●郷土理解コース 郷土の歴史、文化などの学習や自然とのふれあいをすすめる講座です。
	県内	とちぎ子ども未来創造大学	理系4コース、文系3コース、学び方1コースの全8コースで実施。 とちぎ子ども大学では、その場所で見られないもの、体験できないことなど、「本物」に触れる学びや栃木県で活躍している専門家の先生方の授業を受けることができる。
29	栃木県総合教育センター	第8期とちぎの教育未来塾	(1)教職経験5年以内の若い教員が、自主的・継続的な研修を通して、教師としての基礎を確立するとともに、学生等を交えたグループ協議等を通して、先輩教員としての自覚を高める。 (2)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。 (3)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。
	県内	とちぎ県民カレッジ	●健康・スポーツコース 健康やスポーツなどに関する教室や講座です。 ●文化・教養コース 文学、芸術、政治・経済、時事問題、教育等を広く学習する講座です。 ●地域活動コース 地域の団体活動やボランティア活動に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●能力・自己開発コース 職業や日常生活に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●郷土理解コース 郷土の歴史、文化などの学習や自然とのふれあいをすすめる講座です。
	県内	とちぎ子ども未来創造大学	理系4コース、文系3コース、学び方1コースの全8コースで実施。 とちぎ子ども大学では、その場所で見られないもの、体験できないことなど、「本物」に触れる学びや栃木県で活躍している専門家の先生方の授業を受けることができる。
30	栃木県総合教育センター	第9期とちぎの教育未来塾	(1)教職経験5年以内の若い教員が、自主的・継続的な研修を通して、教師としての基礎を確立するとともに、学生等を交えたグループ協議等を通して、先輩教員としての自覚を高める。 (2)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。 (3)栃木県の公立学校の教員を目指す学生等が、実際の学校現場で指導に当たっている若い教員と共に学ぶことを通して、教師としての基本的な事柄を理解し、教職に対する情熱・使命感を高める。
	県内	とちぎ県民カレッジ	●健康・スポーツコース 健康やスポーツなどに関する教室や講座です。 ●文化・教養コース 文学、芸術、政治・経済、時事問題、教育等を広く学習する講座です。 ●地域活動コース 地域の団体活動やボランティア活動に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●能力・自己開発コース 職業や日常生活に必要な知識や技能を習得するための講座です。 ●郷土理解コース 郷土の歴史、文化などの学習や自然とのふれあいをすすめる講座です。
	県内	とちぎ子ども未来創造大学	理系4コース、文系3コース、学び方1コースの全8コースで実施。 とちぎ子ども大学では、その場所で見られないもの、体験できないことなど、「本物」に触れる学びや栃木県で活躍している専門家の先生方の授業を受けることができる。

年度	連携に係る協議会		連携事業	共同研究
	開催日	開催場所		
26	平成26年7月3日(木) 平成27年3月19日(木)	群馬大学 群馬県教育委員会	・シンポジウムの開催(別紙参照) ・科学の甲子園群馬大会 ・実践交流会(別紙参照) ・事例検討会	・小学校における体育授業プログラムの開発 ・理数科教育の充実に関する研究 ・「いじめ」問題の解決に向けた教育課題解決モデルの構築 ・特別支援教育の充実 ・ぐんま「確かな学力」育成プロジェクト
27	平成27年6月25日(木) 平成28年2月15日(月)	群馬大学 群馬県教育委員会	・実践交流会(別紙参照) ・科学の甲子園群馬大会 ・事例検討会	・小学校における体育授業プログラムの開発 ・理数科教育の充実に関する研究 ・「いじめ」問題の解決に向けた教育課題解決モデルの構築 ・特別支援教育の充実 ・ぐんま「確かな学力」育成プロジェクト
28	平成28年7月15日(金) 平成29年2月6日(月)	群馬大学 群馬県教育委員会	・シンポジウムの開催(別紙参照) ・科学の甲子園群馬大会	・小学校における体育授業プログラムの開発 ・理数科教育の充実に関する研究 ・「いじめ」問題の解決に向けた教育課題解決モデルの構築 ・特別支援教育の充実 ・新たな英語教育のコミュニケーション能力育成に向けた4技能評価
29	平成29年7月11日(火) 平成30年2月2日(金)	群馬大学 群馬県教育委員会	・シンポジウムの開催(別紙参照) ・科学の甲子園群馬大会	・小学校における体育授業プログラムの開発 ・理数科教育の充実に関する研究 ・「いじめ」問題の解決に向けた教育課題解決モデルの構築 ・特別支援教育の充実 ・新たな英語教育のコミュニケーション能力育成に向けた4技能評価
30	平成30年7月20日(金) 平成31年3月11日(月) (第2回目は予定)	群馬大学 群馬県教育委員会	・シンポジウムの開催(別紙参照) ・科学の甲子園群馬大会の開催	・小学校における体育授業の充実 ・理数科教育の充実に関する研究 ・親の学びプログラムの作成と普及 ・特別支援教育の充実 ・新たな英語教育のコミュニケーション能力育成に向けた4技能評価

シンポジウム・実践交流会開催状況

開催日	会場	実施形態	テーマ	参加者数	備考
平成2	群馬大学 教育学部	実践交流会	【ぐんまの教師力を高める 2014】 講演「学習支援のツボー認知心理学者が教室で考えたことー」 分科会 第1分科会 小学校の体育授業プログラムを活用した授業づくり 第2分科会 大学と現場との往還による「理科実験力」の向上 第3分科会 「いじめ」問題の解決を通じた教育課題解決モデルの実際 第4分科会 『はげたく群馬の指導者さん』	232人	【主催】国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会 【共催】前橋市教育委員会
平成2	群馬大学 大学会館	シンポジウム	【ぐんまの教師力を高める 2014】 講演「教員養成改善・充実について」 報告「教員養成・研修における大学と教育委員会・学校現場との連携」 パネルディスカッション「大学と教育委員会・」	110人	〃
平成2	群馬大学 教育学部	実践交流会	【ぐんまの教師力を高める 2015】 講演「インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進」 分科会 第1分科会 小学校低学年の体育授業プログラムを活用した授業づくり 第2分科会 大学が関わる「理科実験力」向上の方策：現場支援から新機軸の教材開発まで 第3分科会 「いじめ」問題の解決を通じた教育課題解決モデルの実際 第4分科会 実践から考える合理的な配慮～エリアモデル校の取組と交流及び共同学習から	224人	〃
平成2	群馬大学 教育学部	シンポジウム	【ぐんまの教師力を高める 2016】 「アクティブ・ラーニングとは何かーその実践例をもとにー」	126人	〃
平成2	群馬大学 教育学部	シンポジウム	【ぐんまの教師力を高める 2017】 「アクティブ・ラーニングとは何か<第2回>ー社会科・算数科における実践例をもとにー」	126人	〃
平成3	群馬大学 教育学部	シンポジウム	【ぐんまの教師力を高める 2018】 「アクティブ・ラーニングとは何か<第3回>ー『つくる、みる、振り返る』の循環システム	90人	〃

別紙

シンポジウム・実践交流会開催状況

開催日	会場	実施形態	テーマ	参加者数	備考
平成26年6月1日(日)	群馬大学 教育学部	実践交流会	<b>【ぐんまの教師力を高める 2014】</b> 講演「学習支援のツボー認知心理学者が教室で考えたことー」 分科会 第1分科会 小学校の体育授業プログラムを活用した授業づくり 第2分科会 大学と現場との往還による「理科実験力」の向上 第3分科会 「いじめ」問題の解決を通じた教育課題解決モデルの実際 第4分科会 『はばたく群馬の指導プラン』を活用して授業を改善する 第5分科会 授業における協働的な学習環境デザインについて考える	232人	<b>【主催】</b> 国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会 <b>【共催】</b> 前橋市教育委員会
平成26年12月14日(日)	群馬大学 大学会館	シンポジウム	<b>【ぐんまの教師力を高める 2014】</b> 講演「教員養成改善・充実について」 報告「教員養成・研修における大学と教育委員会・学校現場との連携」 パネルディスカッション「大学と教育委員会・学校現場の連携のこれから」	110人	〃
平成27年11月8日(日)	群馬大学 教育学部	実践交流会	<b>【ぐんまの教師力を高める 2015】</b> 講演「インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の推進」 分科会 第1分科会 小学校低学年の体育授業プログラムを活用した授業づくり 第2分科会 大学が関わる「理科実験力」向上の方策：現場支援から新機軸の教材開発まで 第3分科会 「いじめ」問題の解決を通じた教育課題解決モデルの実際 第4分科会 実践から考える合理的な配慮～エリアモデル校の取組と交流及び共同学習から～ 第5分科会 小・中・高英語教育改革に向けた英語活動「構成・展開力アップ」	224人	〃
平成28年11月20日(日)	群馬大学 教育学部	シンポジウム	<b>【ぐんまの教師力を高める 2016】</b> 「アクティブ・ラーニングとは何かーその実践例をもとにー」	126人	〃
平成29年11月19日(日)	群馬大学 教育学部	シンポジウム	<b>【ぐんまの教師力を高める 2017】</b> 「アクティブ・ラーニングとは何か<第2回>ー社会科・算数科における実践例をもとにー」	126人	〃
平成30年11月18日(日)	群馬大学 教育学部	シンポジウム	<b>【ぐんまの教師力を高める 2018】</b> 「アクティブ・ラーニングとは何か<第3回>ー『つくる、みる、振り返る』の循環システムを取り入れた授業づくりー」	90人	〃

とちぎの求める教師像

## ～自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師～

人間性豊かで信頼される教師  
幅広い視野と確かな指導力をもった教師  
教育的愛情と使命感をもった教師

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
全体指標	教員としての基礎・基本を理解するとともに、教職生活全体を通して自律的に学び続けようとする強い意志を持っている。	教育活動に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、同僚からの助言等を得ながら職務を遂行している。	専門的な知識・技能や、新たな教育課題に対応する実践的指導力を身に付けるとともに、同僚と協働しながら職務を遂行している。	学校の課題解決を目指し、組織を活性化させたり企画力・実践力を発揮したりするなど、ミドルリーダーとして学校運営に積極的に参画している。	教職生活を通して培った経験のもとリーダーシップを発揮し、学校の教育目標の達成を目指して積極的に学校経営を支え続けている。

### ○学習指導に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
学習指導全般	学習指導の基礎・基本を理解するとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志を持っている。	学習指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、児童生徒の主体的な学びを促す学習指導の工夫・改善を図っている。	学習指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践においてミドルリーダーとしての役割を果たしている。	若手・中堅教員等に学習指導の範を示すとともに、課題解決に向けて、教育課程の見直しや授業改善等にリーダーシップを発揮している。
指導計画等の立案・実施	教育目標の実現に向けて、指導計画に基づいて学習指導を行うことの大切さを理解している。	学習指導要領や年間指導計画等に基づき、指導目標や評価計画、指導内容等を適切に設定して学習指導案を作成している。	学習指導上の課題を把握し、同僚と情報交換を行いながら指導計画の工夫・改善を図っている。	学年間の接続や教科横断的な視点などから、学校全体を視野に入れた指導計画の工夫・改善を図っている。	学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの改善・充実にリーダーシップを発揮している。
指導方法・教材研究の工夫	授業の基本技術	授業展開の仕方や教材研究の進め方を理解している。	話し方、板書の仕方、発問の仕方等の基本技術を身に付けるとともに、児童生徒の理解度や反応などを的確に捉え、同僚の助言等を得ながら、指導方法の工夫・改善に努めている。	研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。	児童生徒の実態を踏まえ、教科や学年を越えて同僚と協働しながら、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。
	教材研究		授業のねらいを明確にするとともに、ICT機器などの教材・教具を工夫するなど、児童生徒の理解を深めるための指導の工夫を行っている。	研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、児童生徒の理解を深めるための教材の開発や指導の工夫に取り組んでいる。	教材の選定や指導方法、指導形態等について研究を続けるとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。
評価の工夫	指導と評価の一体化を進める大切さを理解している。	児童生徒の学習状況を確実に把握し指導に生かすことができるよう、同僚からの助言等を得ながら評価方法の工夫・改善に努めている。	児童生徒の学習状況をより多面的に把握し指導に生かすことができるよう、同僚と協働しながら評価方法の工夫・改善に努めている。	学習指導上の課題を踏まえ、改善に向けた評価方法等について同僚と協働しながら組織的に研究、実践している。	指導と評価が一体となった評価方法等について研究を続けるとともに、同僚への支援・助言を行っている。

### ○児童・生徒指導に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
児童・生徒指導全般	児童・生徒指導の基礎・基本を理解しているとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志を持っている。	児童・生徒指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、指導の工夫・改善を図っている。	児童・生徒指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。	若手・中堅教員等に児童・生徒指導の範を示すとともに、課題解決に向け、指導計画の見直しや関係機関等との連携等にリーダーシップを発揮している。
児童生徒との信頼関係の構築	児童生徒理解	児童・生徒指導における児童生徒理解と信頼関係づくりの大切さを理解している。	日常的な関わりや同僚からの情報を得ながら、児童生徒の性格や心身の状況等の把握に努めている。	同僚と積極的に情報交換を行うなどして、児童生徒の多面的・多角的な理解に努めている。	児童生徒一人一人に関する様々な情報を学年や学校全体で共有できるよう、教職員間の連絡・調整に当たっている。
	信頼関係づくり・教育相談		カウンセリングマインドをもって児童生徒一人一人に共感的、受容的に接し、信頼関係の構築に努めている。	研修等を通して教育相談の基本を学び、児童生徒の相談を受け止め、適切に対応することにより、信頼関係を築いている。	児童生徒の悩み等を的確に把握し、問題解決に向けて同僚と協働しながら対応している。
児童生徒への指導・援助	予防的・開発的な児童・生徒指導	児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。	基本的な生活習慣を身に付けさせる指導に、同僚からの助言等を得ながら取り組んでいる。	集団指導や個別指導を通して、自己指導能力を育む児童・生徒指導に同僚と協働しながら取り組んでいる。	児童生徒の自己指導能力を育む方を積極的に提案するとともに、学年や部を越えて実践できるように連絡・調整に努めている。
	問題行動等への対応		組織的な対応の重要性を理解するとともに、日頃から児童生徒の様子を観察し、問題行動等の未然防止、早期発見、迅速な対応に努めている。	事例研究等を通して問題行動等への対応について理解を深めるとともに、問題行動等に対して同僚と協働しながら対応している。	問題行動等の背景、原因を的確に把握し、解決のための方策を考えるとともに、関係職員と連携しながら組織的に対応している。
	特別活動、進路指導等への取組		特別活動や進路指導等の意義を理解し、同僚からの助言等を得ながら指導している。	キャリア教育の視点を持ち、同僚と協働しながら、個に応じた適切な指導を行っている。	学校の特色を生かした効果的な特別活動、進路指導等の在り方について具体策を考え、同僚と協働しながら組織的に取り組んでいる。

○参画・経営に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
参画・経営全般	組織の一員として自分の役割を果たそうとする強い意志をもっている。	「報告・連絡・相談」を確実にを行うとともに、同僚からの助言等を得ながら、校務分掌の遂行に当たっている。	社会の変化に目を向け、広い視野をもつとともに、同僚と協働しながら校務に組織的に取り組んでいる。	学校経営上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。	リーダーシップを発揮しながら同僚の意欲の向上や組織力の強化を図るとともに、学校の教育目標の達成に向けて積極的に学校経営に参画している。
校務分掌への取組	校務の一端を担い、組織の一員として働くことの大切さを理解している。	担当する校務分掌について、同僚からの助言等を得ながら、迅速・正確に処理している。	担当する校務分掌について、同僚と協働しながら、工夫・改善しながら取り組んでいる。	校務分掌への取組を通して学校の課題を把握し、他の校務分掌との連携を図りながら、改善に努めている。	学校の教育目標の達成に向けて校務分掌に取り組むとともに、組織間の連携が図られるよう、同僚への支援・助言に積極的に取り組んでいる。
学級・学年経営・参画	学級・学年経営の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	学年主任や他の担任の助言等を得ながら、学びに向かう集団に高めていくための学業指導の充実に取り組んでいる。	担当する学級及び学年の現状を把握し、同僚と協働しながら、学級・学年経営に参画している。	学校の教育目標等に基づき、同僚と協働しながら、よりよい学級経営・学年経営を目指して、工夫・改善に取り組んでいる。	学年全体の学級経営の現状を把握し、学校の教育目標等の実現に向けて、リーダーシップを発揮しながら、組織的な学年経営に取り組んでいる。
学校経営への参画	組織の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	「報告・連絡・相談」を確実にしながら、校内組織での自らの役割を果たしている。	学校経営方針を理解し、同僚と協働しながら、校務に組織的に取り組んでいる。	学校組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントについて理解し、学校の教育目標の達成、学校経営上の課題の解決のために積極的に取り組んでいる。	学校の教育目標の達成や学校経営上の課題の解決に向けた組織体制づくりにリーダーシップを発揮しているとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。
日常の教育活動における安全確保	全ての教育活動の基盤となる安全確保の重要性について理解している。	同僚からの助言等を得ながら、教育環境、教育活動の安全確認に努めている。	学校の安全計画を理解し、同僚と協働しながら確実な実施に努めている。	安全担当者等と協働しながら、事故の未然防止に努めるとともに、安全上の課題の把握に努め、その解消に速やかに取り組んでいる。	日頃より事故の未然防止に努めるとともに、事故発生を想定した具体的な対応について、同僚と十分に共通理解を図り、支援・助言を行っている。
家庭・地域・関係機関等との連携	家庭・地域・関係機関等と連携・協働することの大切さを理解している。	学習指導、児童・生徒指導をはじめとする校務全般において、同僚からの助言等を得ながら、家庭や関係機関等との連携・協働に努めている。	学校内外の関係者との情報交換を積極的に行い、家庭や関係機関等との連携・協働の促進に努めている。	家庭や関係機関等との連携・協働がより効果的なものとなるよう、学校内外の関係者との連絡・調整を積極的に行っている。	家庭や関係機関等への情報提供や連携・協働の方法について、同僚への支援・助言に努めるとともに、校内の組織体制づくりにリーダーシップを発揮している。

○意欲・態度に関する指標

		採用時の姿	ステージⅠ～ステージⅣ
教育的愛情・熱意	教育的愛情	教育的愛情と使命感をもった教師になるという強い意志をもっている。	児童生徒に教育的愛情をもって接している。
	信念、熱意		正しい信念のもと、熱意と使命感をもって仕事に取り組んでいる。
	人権尊重の精神		人権尊重の観点を重視し教育活動を行っている。
誠実・品位、公正、法令の遵守等	誠実・品位		礼儀正しい態度で誠実に仕事に取り組んでいる。
	公正		偏りが無い見方・考え方で公正に勤務している。
	法令の遵守		職務・勤務の在り方を自覚し、厳正に勤務している。
責任感・寛容性・協調性等	責任感		責任をもって職務を遂行している。
	寛容性		異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。
	協調性		同僚と協調して職務にあたっている。
研修に対する意欲			自己の能力向上のために、研究と修養に取り組んでいる。



I 群馬県が求める教員像

1 社会人としての優れた識見を有する教員

- 広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができる。
- 高い倫理観と規範意識を備え、児童生徒の鑑（手本）となる言動をとることができる。
- 自らの職責を自覚し、責任をもって職務を遂行することができる。

2 幅広い視野と高い専門性を有する教員

- 教科等に関する専門的な知識や技能を有し、主体的・対話的で深い学びにより、群馬の子供たちに「時代を切り拓く力」を育むことができる。
- 情報化やグローバル化など社会の変化をとらえ、専門性を高めるために日々努力し、学び続けることができる。
- 児童生徒の実態や発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性を尊重し、その可能性を最大限に伸ばすとともに、共生社会の形成を目指すことができる。
- 学校教育目標の実現に向けて、保護者や地域の思いや願いを生かしながら、組織的・計画的に教育活動を行うことができる。

3 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員

- 教育的愛情と指導への情熱をもち、多様な考えや特性を認めながら児童生徒の可能性を伸ばすことができる。
- 組織の一員としての自覚をもって連携・協力するとともに、互いに高め合うことができる。
- 郷土の歴史や文化、生活等について理解し、保護者や地域、関係機関等と連携することができる。

II ステージごとの求める資質能力

群馬県の教員としての基礎的素養

教育的愛情・情熱

使命感・責任感

規範意識・人権感覚

コミュニケーション能力

学び続ける姿勢

教職課程修了時

キャリア段階Ⅰ

キャリア段階Ⅱ

キャリア段階Ⅲ

管理職

基礎形成期

資質向上・充実期

資質発展・円熟期

＜教職課程修了時＞

- 児童生徒への教育的愛情
- 教職の意義や教員の役割等についての理解
- 学習指導等についての基礎的・基本的な知識
- 社会人としての常識・識見
- 郷土(ふるさと群馬)への理解

など

＜キャリア段階Ⅰ＞

- 児童生徒理解
- 基礎的・基本的な指導力
- 組織の一員としての自覚
- 自己の課題を把握する力
- 保護者や地域と連携する力 など

＜キャリア段階Ⅱ＞

- 実践的な指導力
- 周囲の教職員に助言する力
- 関係する教職員と連携する力
- 学校経営に積極的に参画する力
- 保護者や地域と協働する力 など

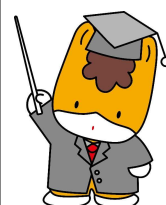
＜キャリア段階Ⅲ＞

- 学校全体の課題を把握する力
- 課題解決に向けて具体策を提案する力
- 組織的な取組に向けた企画力・調整力
- 若手教員を育成する力
- 保護者や地域との協力体制を築く力 など

＜管理職＞

- 学校経営に関する専門的知識
- リーダーシップ
- 判断力・決断力
- マネジメント力
- 人材育成力
- 危機管理能力

など



総第 499 号

平成 31 (2019) 年 3 月 25 日

宇都宮大学教育学部長 様

栃木県教育委員会教育長



### 群馬大学との共同教育学部構想への期待について

この度、貴学部が進めている群馬大学との共同教育学部構想は、教員養成の高度化を図り、本県における義務教育学校段階の教員を長期にわたって安定的に養成する上で極めて重要であり、今後ますます必要とされる質の高い教員確保の観点から支持いたします。

特に、以下の 3 点について、大いに期待しております。

#### 1 教員需要の減少期において安定した教員養成を継続できること

少子化により、教員需要は今後ますます落ち込むことが予想されており、このままでは教員養成学部の縮小は避けられない状況です。その際、技術・家庭、音楽、美術等、定員の少ない教科の免許課程の維持が困難になることが心配されます。今回の共同教育学部構想は、2 大学で全ての教科の免許課程を長期的に維持しようとするものであり、本県の教育界にとっても大変望ましい改革の方向であると考えます。

#### 2 特別支援学校教員養成の充実

特別支援学校においては、特別支援学校教諭免許状を保有する教員の割合が現在約 70% であり、特別支援学校教員免許を保有する教員の養成が急務となっています。特に、聴覚障害および視覚障害領域の免許保有率は 60% を下回っており、その要因として、聴覚障害および視覚障害領域の教員養成を実施している大学が非常に少ないことが挙げられます。今回の共同教育学部構想において、貴学部が特別支援学校の教員養成にさらに力を入れ、特に、聴覚障害及び視覚障害を含む 5 領域すべての特別支援学校教諭免許が取得可能になることは、これらの課題の解決に向けて大きな役割を果たすものと期待しております。

#### 3 現代的課題に対応できる質の高い教員養成が可能となること

情報技術の進展により超スマート社会 (Society5.0) の到来が予想されています。また、グローバル化への対応や持続可能な社会の構築など、地球規模の課題への対応が求められています。共同教育学部化により、両大学の資源を有効活用し、現代的な諸課題に対応する資質能力の育成のための Forefront 科目を設置することは、次世代を担う子どもたちの教育に当たる教員の養成に資する大変重要な構想であり、その効果に大いに期待しております。

平成 31 年 3 月 19 日

宇都宮大学教育学部長 様

栃木県高等学校長会長

大橋 芳樹



### 群馬大学との共同教育学部構想への期待について

現在貴学部で進めている群馬大学との共同教育学部構想につきましては、委員として参加している「宇都宮大学教育学部教員養成連携協議会」や高校訪問などをおして詳細な説明を受けております。栃木県高等学校長会としましては、教員をめざす高校生にとってより充実した魅力的な教育が提供されるものとして、共同教育学部構想を支持いたします。

特に、以下の3点については大いに期待しております。

#### 1 教員需要の減少期において安定した教員養成を継続できること

現在全国的に少子高齢化が進展しており、就学期児童生徒数の減少によって、教員需要の落ち込みが予想されています。それに伴い、貴学部をはじめとする教員養成学部の縮小が懸念されます。特に、技術・家庭、音楽、美術等の授業数の少ない教科の教員養成が滞ることが強く懸念されます。貴学部の共同教育学部構想は、2大学が共同して教員養成を行うことによって、今後長期にわたってこれらの教科も含めたフルセットの教員養成を担保するものであり、様々な教科の教員をめざす高校生の要望に応えるものであります。

#### 2 特別支援学校教員養成の充実

特別支援学校においては、特別支援学校教諭免許状を保有する教員の割合が約70%であり、引き続き特別支援学校教諭免許を保有する教員の養成が急務であることが全国的な課題となっております。特に、聴覚障害および視覚障害領域の免許保有率が60%を切っており、大きな問題であります。今回の共同教育学部構想において、貴学部が特別支援学校の教員養成にさらに力を入れ、特に、聴覚障害及び視覚障害を含む5領域すべての特別支援学校教諭免許の取得が可能になることは、これらの問題を解決するうえで非常に重要であるとともに、様々な障害種の特別支援教育に興味のある高校生の要望に幅広く応えるものであります。

#### 3 幅広い専門分野を学べること

情報技術革新の一層の進展による超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、また、グローバル化の進展や持続可能な社会の構築など、地球規模の人類共通の課題が増大しております。貴学部の共同教育学部構想において、両大学の資源を活用してこれらの現代的課題に対する資質能力の育成のための Forefront 科目の設置を計画していることは、次世代を担う子どもたちの教育に当たる教員の養成に資する大変重要な構想であり、その効果が大いに期待されます。

さらに、両大学の教員が共同することにより幅広い専門分野の指導を地元の大学で受けられることは、教員をめざす高校生にとっては非常に魅力的であるといえます。

平成31年4月5日

群馬大学  
学長 平塚浩士 様

群馬県教育委員会  
教育長 笠原 寛



群馬大学共同教育学部設置に関する要望書

日頃より、本県教育の充実・発展及び教員の養成に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

これまで貴大学教育学部には、多くの有為な人材を本県教育界に輩出していただき、今般の宇都宮大学との連携による新たな共同教育学部の設置については、当教育委員会としても期待を寄せているところです。

近年、人口減少の加速化と人口構成の変化に加え、急速な技術革新やグローバル化・情報化の進展など、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。本県においても新学習指導要領への対応、いじめや不登校の問題、特別支援教育の充実等、多くの教育課題が山積しています。このような課題の解決に向けては、より高い専門性と実践力を備えた教員の養成が重要と考えます。

つきましては、現在、貴大学が進めている共同教育学部の設置について、下記のことにお配意いただきますようお願い申し上げます。

記

1 中学校10教科及び特別支援学校5領域の教員の養成

本県の教育水準の維持・向上のためには、すべての教科等において安定的に教員を配置できることが非常に重要であることから、貴大学には中学校10教科の教員養成を継続していただき、さらなる質の向上を図られるよう要望します。また、本県では特別支援学校の拡充を進めており、教員の特別支援学校免許状保有率の向上に努めていることから、特別支援学校教員の養成に向けて5領域の免許状を取得できる体制の継続を要望します。

2 小学校・中学校両方の免許状を所有する教員の養成

本県では、義務教育9年間の継続性及び小学校と中学校の接続を意識した教育活動の展開が重要と考え、両校種の免許状を取得することを奨励しています。また、学校課題の解決や教員の資質向上に向けて、人事異動においては小・中学校間の交流を積極的に行っています。そのため、新規に採用する教員については、小・中学校両方の免許状を取得していることが望ましいと考えており、新たに設置される共同教育学部においても両校種の免許状が取得できる体制の継続を要望します。

平成31年4月16日

群馬大学

学長 平塚浩士 様

群馬県高等学校長協会

会長 大栗勇



### 群馬大学共同教育学部設置に関する要望書

日頃より、群馬県内の高等学校・中等教育学校・特別支援学校における教育活動等に対しまして、御支援・御指導をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、貴大学では宇都宮大学と共同教育学部設置を検討中とのことであり、教育学部の改編・充実の際には、下記の点に御配慮いただきますようお願い申し上げます。

#### 記

##### 1 特別支援学校教諭免許の全5領域取得可能な課程の設置について

本県の特別支援学校では、障害のある児童・生徒への指導力向上のためにも、教員の特別支援学校免許状保有率を上げるべく努めているところです。特別支援学校により多くの専門性の高い教員を確保するためにも、全ての領域免許が取得できる課程の設置を要望いたします。

##### 2 中学校での全10教科教員免許が取得できる課程の設置について

中学校学習指導要領を実施していく上で必要となる全ての教科の教員免許取得が可能な体制ができるようお願いいたします。本県における拠点の教員養成学部を有する貴大学におかれましては、10教科全ての教員養成ができるよう重ねて要望いたします。